

村から受給することができます。

● 給付金を受給するためには、現在お住まいの市区町村での手続きが必要です。

※1「DV等避難中」とは、ドメスティック・バイオレンス、ストーカ一行為、児童虐待やこれに準ずる行為等の被害者が基準日において住所地以外に避難している場合をいいます。

令和3年度基準日：令和3年12月10日

令和4年度基準日：令和4年6月1日

※2「住所地」とは、住民票の有無にかかわらず、避難する前に居住していた場所をいいます。

【支給対象と支給額】

以下のいずれかに該当する避難世帯に対し、1世帯あたり10万円を支給します。なお、給付金は重複して受給することはできません。

- ① 世帯全員が令和3年度又は令和4年度「住民税が非課税」の世帯
- ② 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて家計が急変し、令和4年1月以降の世帯全員の収入が「住民税非課税相当」※3となった世帯（家計急変世帯）

※3 住民税非課税相当とは、世帯員全員のそれぞれの年収見込み額（令和4年1月以降の任意の1か月収入×12倍）が市町民税均等割非課税水準以下であることを指します。

（一例）住民税非課税となる年間給与収入の目安（長崎市の場合）
単身の場合：96.5万円以下、母・子（1人）の場合146.9万円以下

【申請期限】

- ・ 令和3年度住民税課税世帯及び家計急変世帯
令和4年9月30日（金）
- ・ 令和4年度住民税非課税世帯
令和4年10月31日（月）

※申請書類等については下記のお問合せ先までご連絡ください。

【お問合せ先】

長崎市臨時特別給付金コールセンター：0570-095400

受付時間：～令和4年10月31日（月）8：45～18：00（平日のみ）

■ 支 援 情 報 — — — — —

◆ 『面会交流援助無料個別相談会』を西彼地区（長与町・時津町）にて実施いたします。

「面会交流援助」とは、父母が自分たちの力で面会交流を実施できないとき親子の良い関係を育むために、第三者を入れて行う子どもの支援事業です。

面会交流が上手く実施できていない方、これから面会交流を始めようと思われている方、この機会にご相談ください。

≪ 長与町 ≫

【日程】令和4年9月17日（土）、10月9日（日）

【時間】10時～16時 ※12時～13時は休憩となります。

【会場】長与南交流センター 相談室

（長与町吉無田郷 1163-193）

【対象】西彼地区（長与町・時津町）にお住まいの方限定です。

≪ 時津町 ≫

【日程】令和4年9月23日（金・祝）、10月15日（土）

【時間】10時～16時 ※12時～13時は休憩となります。

【会場】時津町役場 相談室

（時津町浦郷 274-1）

【対象】西彼地区（時津町・長与町）にお住まいの方限定です。

【申込方法】申込フォーム、TEL、FAX

< 申込フォーム >



※長与町・時津町にお住まいの方限定です。

※どちらの会場でもご相談いただけます。

《 申込・問い合わせ先 》

長崎県ひとり親家庭等自立促進センター（YELLながさき）

TEL：095-813-0800 FAX:095-848-1112

＜受付時間＞平日 10:00～18:00

※ご不明な点がございましたらお気軽にご相談ください。

■ 9月の予定-----

◆ 「YELLながさき定期法律相談」

9月21日（水）13:00～16:00（鷲見賢一 弁護士）

《事前予約受付中》

鷲見 賢一 弁護士

弁護士法人 ALAW&GOODLOOP 長崎オフィスホームページ

<http://agl-law.jp/aboutus/office/nagasaki-office/>

※鷲見弁護士は長崎県弁護士会所属です。

※日程等合わない場合はご相談ください。

※来所しての相談が難しい場合は、電話法律相談、オンライン相談
も行なっております。まずはお問合せください。

■ 編集後記 -----

◆ 『9月1日問題』

今年も「9月1日」がやってきます。

多くの地域で長い夏休みが終わり新学期が始まる9月1日。

その日が恐怖でしかない子どもたちが、命を絶ってしまいます。

9月1日は子どもの自殺が多い日、社会的にも『9月1日問題』として認知されるようになってきました。

『9月1日問題』が知られる大きなきっかけとなったのは、2015年鎌倉市の図書館の「もうすぐ二学期。学校始まるのが死ぬほどつらい子は、学校を休んで図書館へいらっしやい。マンガもライトノベルもあるよ。一日いても誰も何も言わないよ。9月から学校行くくらいなら死んじゃおうと思ったら、逃げ場所に図書館も思い出してね。」というツイートです。

保護者だけでなく、多くの大人のサポートを必要としている子どもたちの「心の安全基地」となる居場所や学校以外でのつながりが増え、命を絶つ子どもが減ってくれることを切に願います。